

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也

自分の目標に向かうための実行機能を育む

日々、子どもたちと関わる中で、「自分が子どものときってどんなことしてたっけ?」「何が好きで、何して過ごしてたかな」とよく思い返します。

園庭で子どもたちと一緒に泥団子を作って遊ぶ中、毎日のように何度も何度も繰り返し泥団子を作る子の姿を見ながら、「よく飽きずにあんなに取り組めるなあ」と感心させられるのですが、そういえば自分も小学6年生にもなって昼休み時間にずっと泥団子作っていたという記憶が先日ふと蘇り、なんだか恥ずかしいやら、なんだか笑えるやら…。

子どものときは学校からの帰り道でもこれなんか使えそうと道に落ちているものを拾ってポケットにしのばせたり、よくわからない石のコレクションで机の引き出しがいっぱいになったりと、見るものすべてが新鮮で毎日がワクワク・ドキドキの連続、驚きや発見であふれていました。

大人になっていくにつれ、新しいことやわからないことに出会うと、ワクワク・ドキドキより、いつしか変化への不安や恐怖のほうが上回ってしまう自分に気づきます。変化を怖れる人は、「努力をしても自分は変わらないのではないか」と思い、変化を楽しめる人は、「努力すれば自分はいくらでも変わる」と思う傾向があるそうです(Carol S.Dweck)。そうした価値観の違いが、人の行動や感情にも大きく影響していきます。

子どもたちが身の周りのことすべてをキラキラした目で見ている姿を見るにつけ、今、自分たち(大人)に求められているのはまさに子どもたちが日々抱いているようなそうしたキラキラとした気持ちや姿勢なんだろうと感じます。「また、できなかった…」とネガティブな面ばかりをとらえて無気力になってしまうのか、「こうやったらできるんじゃない」と前向きに考えていくのか、同じ場面に出会ってもどう思うかどう考えるかは「人」次第です。

こんな時代だからこそ、チャレンジな気持ちを持つことや、状況をどう楽しもうかというプレイフルな考え方をす

ることが、自分の成長を信じる力に繋がり、そのエネルギーがもっと自分を成長させていくんだと思います。キラキラと輝く好奇心や探究心を子どもたちがいつしか(自分でも気づかないうちに)手放すことのないように。いろんな経験をする中で、固定的な考え方や価値観のもとにスマートに社会をうまく生きる術を学ぶことに留まってしまふのではなく、柔軟さやしなやかさ(自分らしさ)も発揮できるように。

秋頃のこと。さかあがりができるようになりたい、と何度も何度も練習している年長児がいました。まだ、途中までしか足が上がらないけど、「先生ちょっと見てて」「一緒に練習したい」と声を掛けに来てくれるので、少しでも後押しになるのならと、見守ることしかできないけれど様子を見ていました。

その子は毎日、何度も何度も練習をしていました。おもわずこちらが「ちょっと休んでみない?」と声を掛けたくなるほど。職員室で仕事をしているときに外から熱い視線を感じたときには大概その子からの視線です。「今から、さかあがり練習するから見てて」という無言の視線でのメッセージです。

数えているわけではないのですが、きっと何千回と練習したかと思います。ついにその子はさかあがりができるようになり、今では「見てて!」とさかあがりを見せてくれます。

自分たち保育者の仕事はさかあがりができることをお手伝いする仕事というよりは、「さかあがりができるようになりたい」というその子が描いた目標に向かっていく姿を支える仕事です。「こうしたい」「こうなりたい」という願いのもと、挑戦や自己実現を繰り返していく中で「自分らしさ」が育まれていきます。令和3年度もいろいろな方々のお陰様でもうすぐ終了となります。我々が保育を行えるのも多くの方々のご理解・ご支援あってのもの本当に感謝の思いで一杯です。これからも「自分らしさ」を育み、大きく羽ばたいていく姿を全力で応援していきます(卒園したあともぜひいつでも遊びに来てください。)今年1年間どうもありがとうございました。